

## 2. 牧野維持管理の実態と牧野利用、輪地切り省力化への意向

- 牧野組合調査（中間集計）より

### [ 調査概要 ]

#### ( 1 ) 調査の目的

阿蘇郡内の全牧野組合を対象として草原の現状や維持管理、牧野活用等に関する意向を把握し、阿蘇草原再生事業計画の検討及び、牧野活性化に向けた各種事業を進めるための基礎資料とする。

#### ( 2 ) 調査の主体

- ・ 環境省自然環境局九州地区自然保護事務所
- ・ 熊本県阿蘇地域振興局農業振興課

#### ( 3 ) 調査方法

- ・ 平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月に実施
- ・ 調査票は、阿蘇郡内 181 牧野組合へ町村を介して配布・回収

#### ( 3 ) 調査内容

- ・ 牧野及び組合の状況（平成 10 年牧野組合調査データの更新等）
- ・ 牧野の維持管理について
- ・ 牧野の利用状況と今後について
- ・ 牧野・畜産の活性化への意向
- ・ 輪地切り省力化に関する意向
- ・ 牧野維持管理活動支援への意向
- ・ 採草と草資源利用に関する意向

#### ( 4 ) 回収状況

- ・ 平成 16 年 2 月 23 日現在 132 票回収（72.9%）

この段階で中間集計した結果を以下に示す。

目標回収率 100%としており、全牧野組合から回収完了後、改めて集計しなおす予定。

町村別配布・回収状況（H16 年 2 月 23 日現在）

|        |      |      |      |       |      |       |       |
|--------|------|------|------|-------|------|-------|-------|
| 町村名    | 一の宮町 | 阿蘇町  | 南小国町 | 小国町   | 産山村  | 波野村   |       |
| 配布数    | 26   | 26   | 32   | 12    | 13   | 7     |       |
| 回収数    | 12   | 15   | 26   | 12    | 9    | 5     |       |
| 回収率(%) | 46.2 | 57.7 | 81.3 | 100.0 | 69.2 | 71.4  |       |
| 町村名    | 蘇陽町  | 高森町  | 白水村  | 久木野村  | 長陽村  | 西原村   | 12町村計 |
| 配布数    | 11   | 24   | 10   | 9     | 7    | 4     | 181   |
| 回収数    | 10   | 20   | 8    | 9     | 2    | 4     | 132   |
| 回収率(%) | 90.9 | 83.3 | 80.0 | 100.0 | 28.6 | 100.0 | 72.9  |

## [ 単純集計結果 ]

### 牧野の維持管理について

#### 維持管理を続けている理由（問3）

「農畜産業に欠かせないから」が最大だが、複数の理由が重なり合う

- ・ 最も重視する理由として「農畜産業に欠かせないから」をあげる組合が62%と圧倒的に多く、次いで「先祖代々守ってきたものなので」14%、「国土保全や水源涵養に役立っているから」10%の順となっている。
- ・ 重視する理由3つまでで見ても同じ順（78%、56%、40%）だが、これらに続いて「ふるさとの風景や文化として後世にも伝えたいから」（26%）、「入会権を手放したくないので」（25%）、「行政から中山間地域等直接支払い等の助成金が出るので」（16%）があげられている。
- ・ 「阿蘇に観光客を呼ぶ資源となっているから」や「貴重な動植物があるから」をあげるものは少ない。

#### 今後の維持管理に関する意向（問4）

大半に継続意向があるが、今と同規模ではできないとする組合が20%

- ・ 「今と同じ規模またはそれ以上で継続できる」とする組合が69%、「続けたいが今と同規模ではできない」が20%、「やめたい」が4%。大半は継続意向がある。

### 牧野の利用状況と今後について

#### 利用・管理放棄状況と今後の利用意向（問5～問8）

利用・管理していない土地があるとする組合が46%。有畜農家の減少や高齢化などの主体的な条件が主な理由で、条件さえ整えば再利用へは前向き

- ・ 牧野の中でかつて利用していたが現在は利用していない部分（1ha以上）があるかどうかをたずねた結果、「利用していない土地はない」とする組合は45%、利用していない、あるいは放置している部分があるとする組合が46%であった。このうち全体の33%が「採草も放牧もしていないが野焼きはしている部分がある」とし、17%が「野焼きもせず放置している部分がある」としている。
- ・ 利用していない部分がある組合では、その理由（複数回答）として「地形的に使いにくい」（58%）「有畜農家が少なくなっている」（58%）をあげるものが多い。「牛がいらない」（35%）「高齢化で作業が困難になっている」（33%）が続いている。
- ・ 利用していない部分がある組合について、今後仮に条件が整えば利用したいと思うかをたずねると、「利用したいとは思わない」が23%あるものの、「放牧に利用したい」47%、「採草に利用したい」28%と、利用意向は比較的高い。
- ・ その場合の利用の条件（2つ以内選択）としては、「輪地切り・野焼きができれば」（27%）「飲水施設などの整備の資金があれば」（25%）「牛を預けてくれる人がいれば」（25%）が多く、次いで草の流通に関連して「コストに見合う価格で草の取引ができれば」（20%）が続いている。

### 組合員以外への貸し付け（問9～問13）

一定の条件を満たせば貸し付けは可能

- ・ 利用していない部分がある組合について、組合員以外への貸し付けに関する意向をたずねたところ、「貸し付けてもいい」が60%、「そうは思わない」が32%。
- ・ 貸し付け時の条件（2つ以内選択）としては「利用のしかたを限定」53%、「利用期間をはっきりさせる」50%、「公的機関が仲介」42%が多い。
- ・ 貸し付けが可能な利用のし方（複数回答）として、「畑作利用」や「観光利用」は少なく、「放牧利用」（67%）、「採草利用」（64%）が多い。
- ・ 貸し付けにあたり「施設整備は可能」（64%）だが、「土地形状の変更は可能」とするものは少ない（25%）。
- ・ また貸し付けにあたっての入会権の調整の必要性については、「調整が必要」42%、「特に問題はない」44%となっている。

### 牧野・畜産の活性化への意向

畜産振興にとくに重要と考える施策（問14）

子牛価格の安定を求める回答が圧倒的

- ・ 重要と考える施策（3つ以内選択）としては「子牛価格の安定」（77%）、「補助事業の強化」（52%）、「後継者対策」（39%）が多い。これらに次いで「周年放牧等技術指導」（21%）、「阿蘇の畜産PR（看板等）」（16%）、「地産地消」（14%）などがあげられている。

放牧頭数とその増減（問16）

黒牛は増加傾向、あか牛は組合による差が見られる

- ・ ここ5年間の放牧頭数（預託を含む）は、黒牛の場合「増加」32%、「変わらず」24%、「減少」1%と明らかに増加傾向にあるのに対し、あか牛では、「増加」18%、「変わらず」29%、「減少」44%となっており、減少が多いものの増加した組合も比較的多い。

活性化に向けた組合の取組意向・状況（問17・18・19）

周年放牧に前向き

- ・ 周年放牧については16%が「すでに取り組んでいる」とし、「今後取り組みたい」「検討はしてみたい」とする組合が合わせて56%に達する。
- ・ 放牧酪農については、「すでに取り組んでいる」「検討意向あり」を合わせても11%のみ。
- ・ 放牧肥育については、「関心がある」が11%で、「よく知らない」27%、「関心はない」27%となっている。

中山間地等直接支払い制度（問20・21）

半数以上が助成を受け、大半が継続を希望

- ・ 助成を「受けている」組合が58%、「受けていない」組合が36%。
- ・ この制度は平成16年度で終了する見込みだが、これについて「今のまま継続すべき」とする組合が54%、「制度適用を柔軟にして継続すべき」とする組合が26%と、継続を希望するものが大半を占めている。

#### 補助事業への希望（問 22）

牧柵・水場の整備への希望が多いが、種子・肥料の助成など他の希望とも拮抗

- ・ 畜産継続のために希望する補助事業（3つ以内選択）としては、「牧柵・水場の整備」（48%）、「草地更新時の種子・肥料の助成」（43%）、「牧野改良・草地整備」（42%）が多くあげられている。
- ・ これらに次いで「衛生対策（ダニや病気など）」、「作業機械導入」、「家畜導入」の順となっている。

#### 作業請負集団（コントラクター）への意向（問 23）

3～4割の組合が作業請負集団への委託を検討

- ・ 作業請負集団への委託について、作業種別にたずねたところ、「委託したい」が最も多いのは「牧柵設置・修理」の14%で、次いで「採草」、「輪地切り」、「野焼き」の順となっている。ただし「採草」については「委託しない」も他の作業の場合と比べ多い。
- ・ 「委託したい」「検討したい」を合わせると、どの作業も30～40%の組合で委託の可能性があるといえる。

#### 牧野内の雑草（問 24）

チカラシバが増加

- ・ 牧野内で増加している雑草として、最大のものは「チカラシバ」（49%）とする組合が多く、「ギシギシ」35%、「セイタカアワダチソウ」5%、「その他」14%となっている。

#### 輪地切り省力化に関する意向

##### 野焼き・輪地切り実施方法（問 25・26）

どちらも入会権者全員または地区単位で行うケースが多いが、輪地切りは有畜農家だけで行う組合が比較的多い

- ・ 野焼きについては、「入会権者全員で行う」49%、「地区単位で行う」28%、「有畜農家だけで行う」6%となっている。
- ・ 輪地切りについては、「入会権者全員で行う」42%、「地区単位で行う」23%に対し、「有畜農家だけで行う」が15%と、野焼きの場合に比べ増えている。

##### 輪地切り実施上の問題点（問 27）

急傾斜地が多いこと、森林境の距離や形状が問題

- ・ 輪地切りが必要な箇所とくに問題となること（3つ以内）としては、「急傾斜地が多い」（64%）、「森林境の距離が長い」（49%）、「森林と牧野が複雑に入り組んでいる」（34%）が多くあげられている。

##### 輪地切り省力化技術の認知度（問 28）

モーター輪地切りについては比較的良好に知られている

- ・ モーター輪地切りについては57%が知っているのに対し、小規模点在樹林地除去については22%のみであった。

##### 輪地切り省力化技術への関心（問 29）

管理道を兼ねた恒久輪地整備に高い関心

- ・ 最も関心が高いのは「管理道を兼ねた恒久輪地整備」で56%が関心を示して

いる。次いで「グリーンベルト造成」49%となっており、「モーモー輪地切り」については37%、「牧野内の小規模点在樹林地除去」31%、「防火帯を兼ねた樹林地造成」30%となっている。モーモー輪地については、技術について良く知っている人ほど関心が高く、「詳細まで知っている」人のうち関心を持っている人は、「非常に関心がある」「関心がある」をあわせて67%となっている。

#### 使用可能な省力化技術（問30・31）

モーモー輪地切りは24%が可能性ありとし、全体の半数強が具体的に何らかの輪地切り省力化技術導入を検討

- ・ 使える可能性の高い技術（3つ以内）としては「管理道を兼ねた恒久輪地整備」50%、「グリーンベルトによる防火帯」47%をあげるものが多く、「モーモー輪地切り」24%、「防火帯を兼ねた樹林地造成」18%が続き、「牧野内の小規模点在樹林地除去」については11%となっている。
- ・ これらのうち最も見えそうな技術としても「恒久輪地整備」が最も多く（20%）、次いで「グリーンベルト」（16%）で、「モーモー輪地」は6%となっている。ただしこの設問については見えそうな場所についても具体的に聞く形になっており、無回答が46%と多い。

#### 導入のための条件（問32）

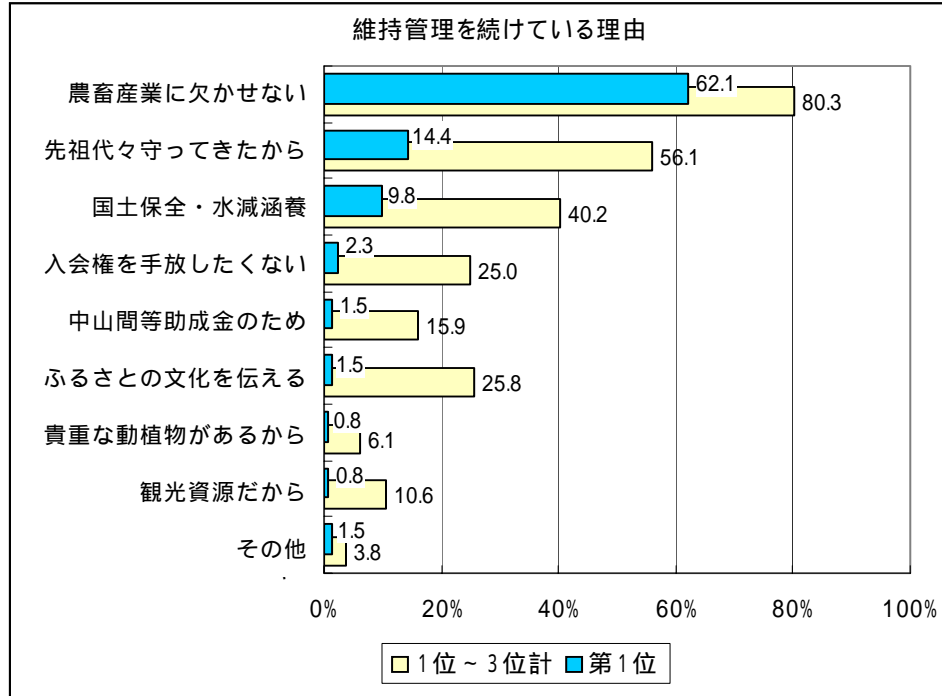
資金、資材提供を求めるものが多い

- ・ 実際に導入するための条件（2つ以内）としては、「資金の提供」（57%）、「資材等の提供」（31%）をあげるものが多く、「労力の提供」（17%）「技術指導」（14%）を求めるものはそれ程多くない。

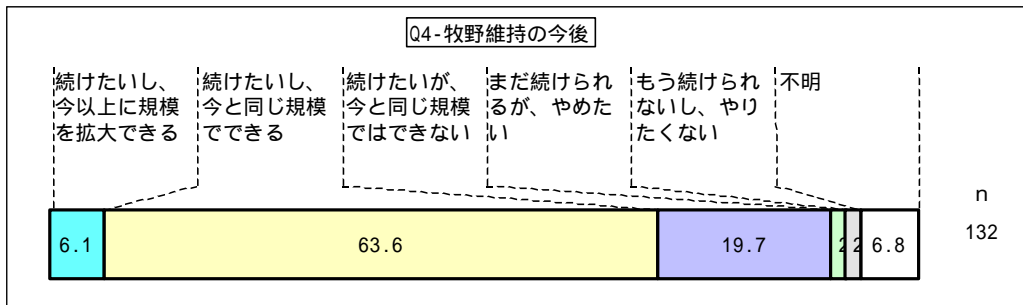
[ 単純集計結果 ( 図表 ) ]

牧野の維持管理について

問 3 . 現在、組合で牧野の維持管理を続けている理由は何ですか( 重視する順に 3 つ選択 )

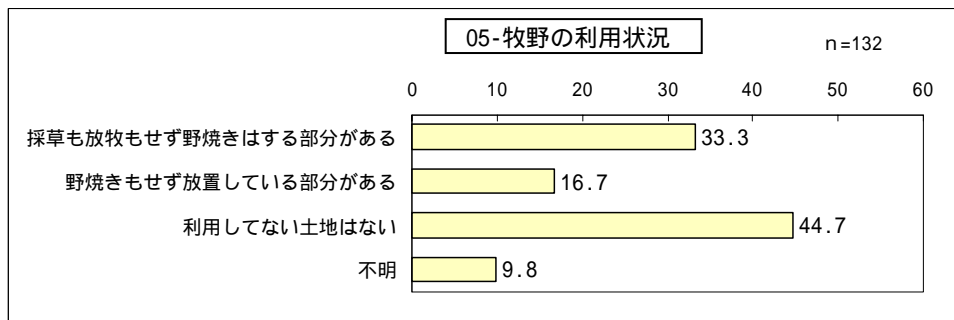


問 4 . 現在組合で行なっている牧野の維持管理作業の今後について



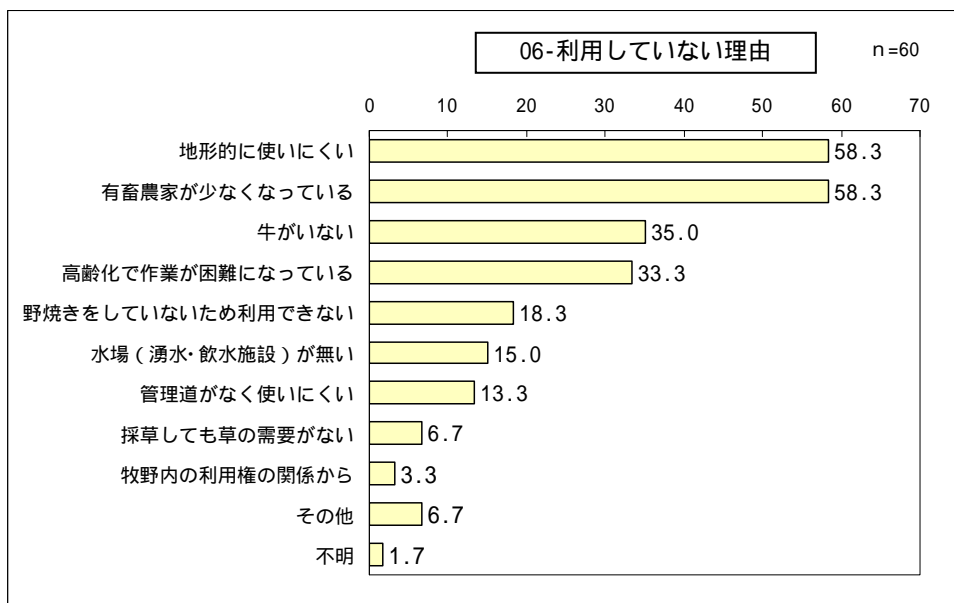
## 牧野の利用状況と今後について

問5 . 牧野の中で、かつて利用していたが現在は利用していない部分(1ha 程度以上)がありますか

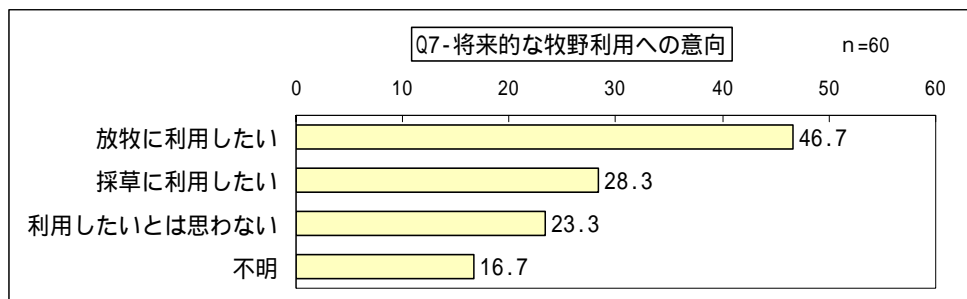


問5で「採草も放牧もせず野焼きはする部分がある」「野焼きもせず放置している部分がある」と答えた方へ

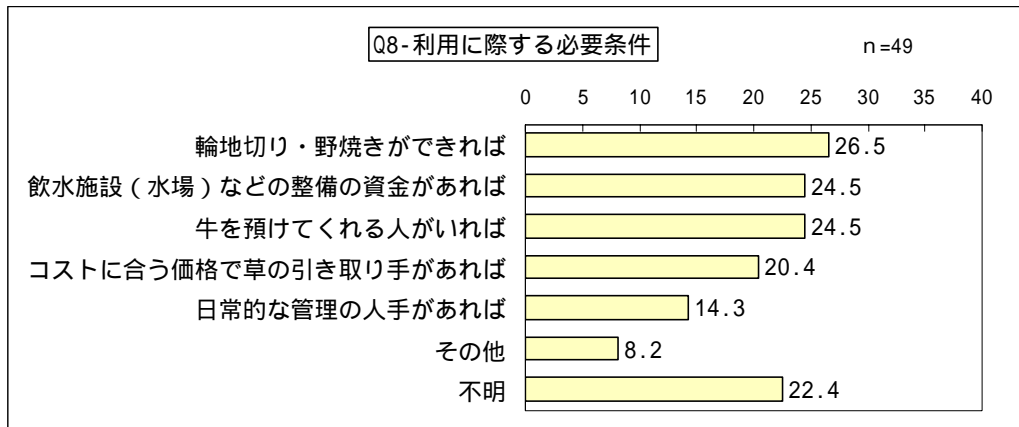
SQ-問6 . 牧野を利用していない理由は何ですか (いくつでも選択)



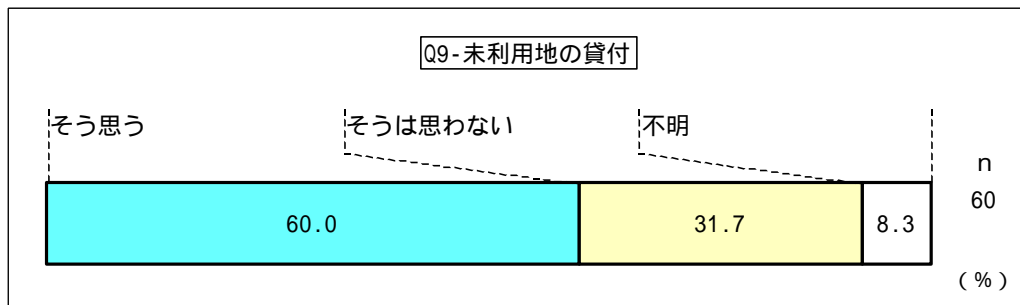
SQ-問7 . 今後、条件が整えば、利用していない牧野を組合内で採草・放牧に利用したいと思いませんか (2つまで選択)



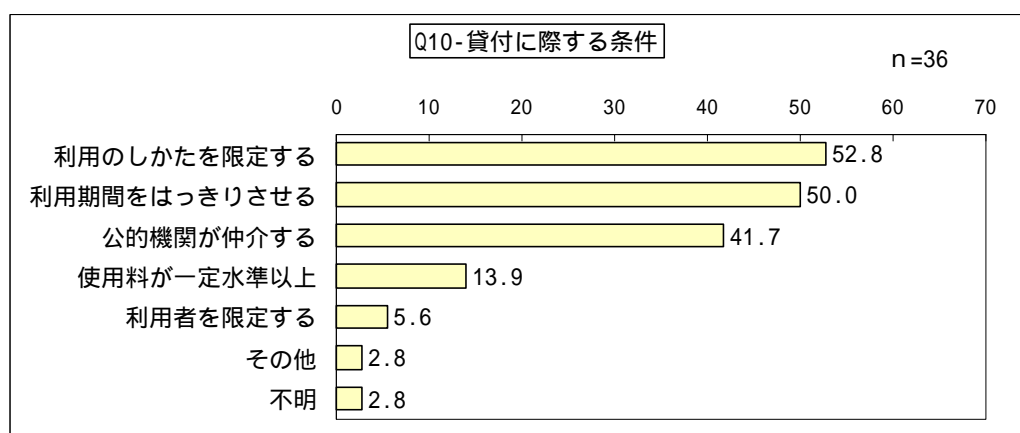
問7で「採草に利用したい」「放牧に利用したい」と答えた方へ  
 SSQ-問8．どんな条件が整えば利用できると思いますか（2つまで選択）



問5で「採草も放牧もせず野焼きはする部分がある」「野焼きもせず放置している部分がある」と答えた方へ  
 SQ-問9．今は利用していない牧野について、条件が整えば組合員以外に貸し付けてもいいと思われませんか

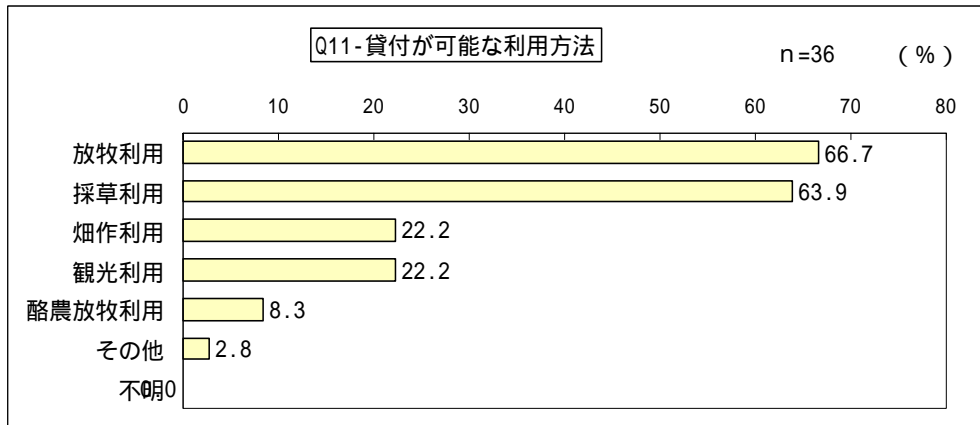


問9で「1．組合員以外に貸し付けてもいい」と答えた方へ  
 SQ-問10．貸し付けにあたり重視したい条件はどんなことですか（2つまで選択）

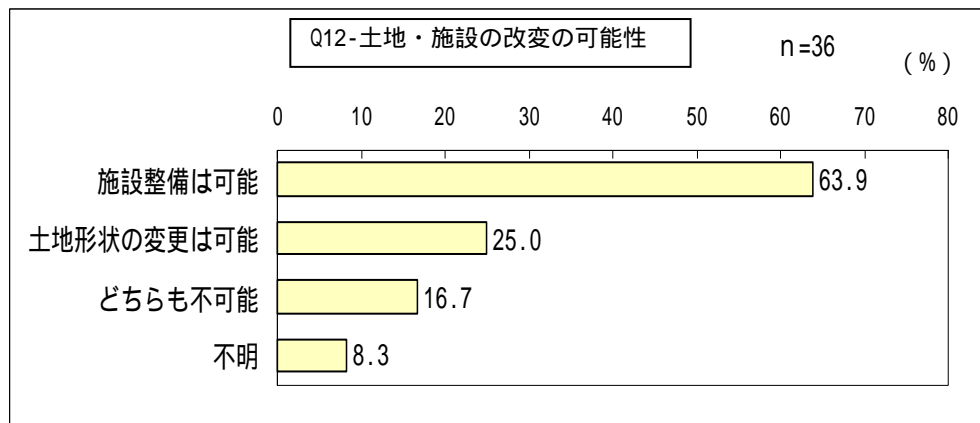




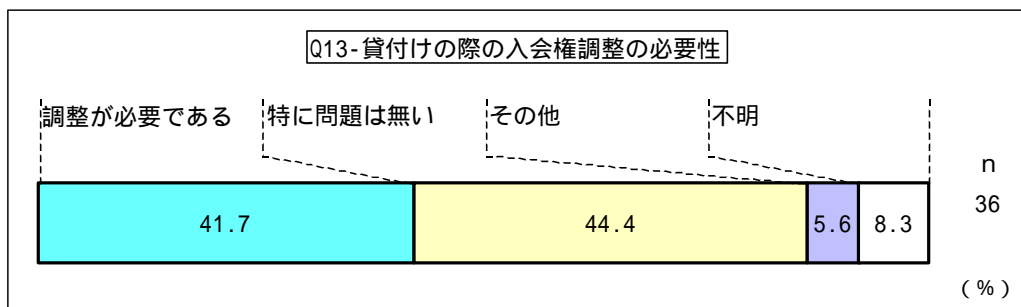
SQ-問 11 . どのような利用のしかたであれば貸し付けが可能でしょうか  
 (いくつでも選択)



SQ-問 12 . 貸し付けにあたり、牧柵・水場等の施設整備と土地形状の変更は可能でしょうか (経費は借りる側の負担として) (あてはまるものに )

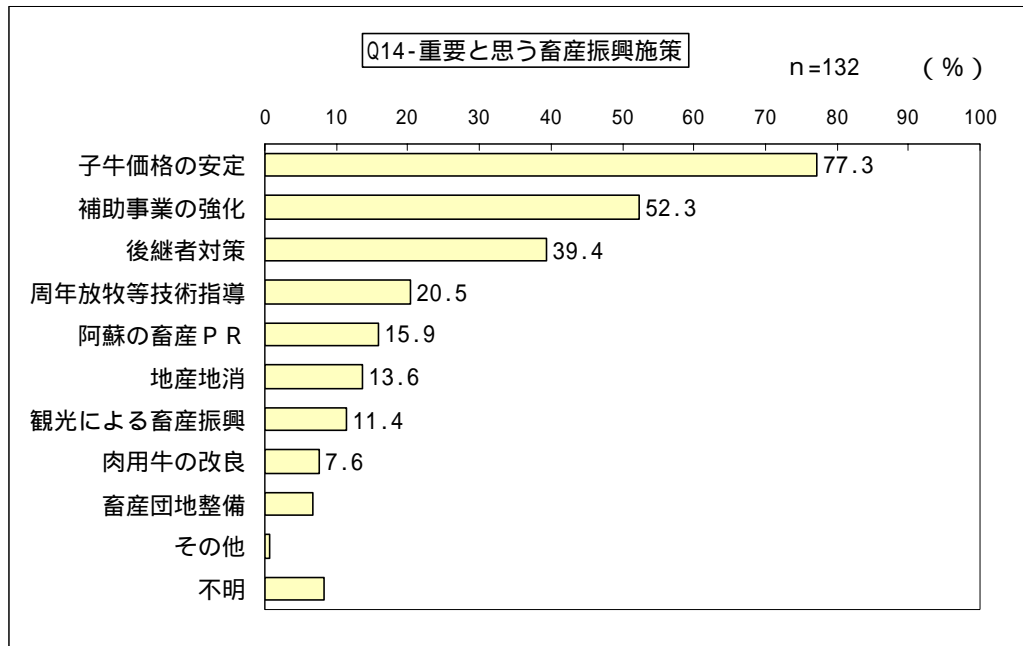


SQ-問 13 . 貸し付けるにあたっては、入会権の調整が必要でしょうか

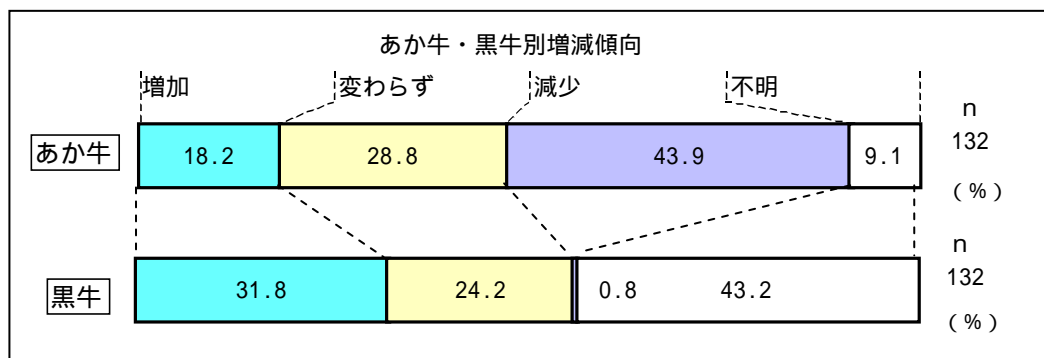


牧野・畜産の活性化について

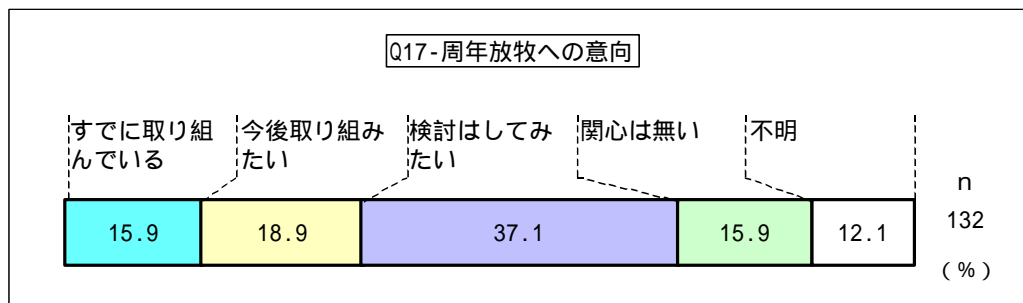
問 14 . 畜産振興のための施策として、何が重要とお考えですか（3つまで選択）



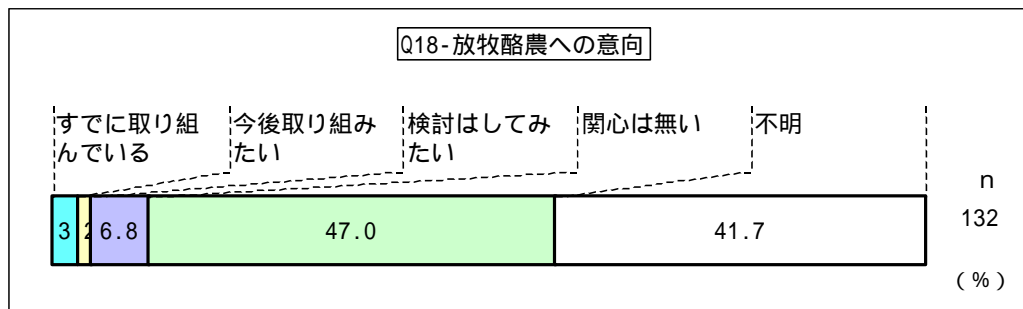
問 16 . ここ5年間のあか牛、黒牛別の放牧頭数の増減傾向（預託を含む）



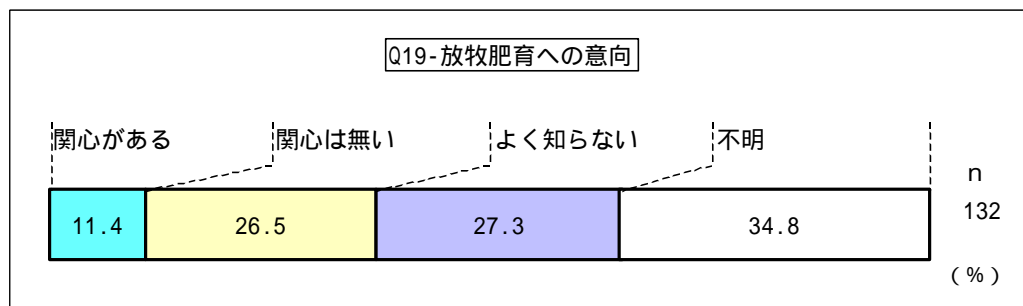
問 17 . 周年放牧についてどうお考えですか



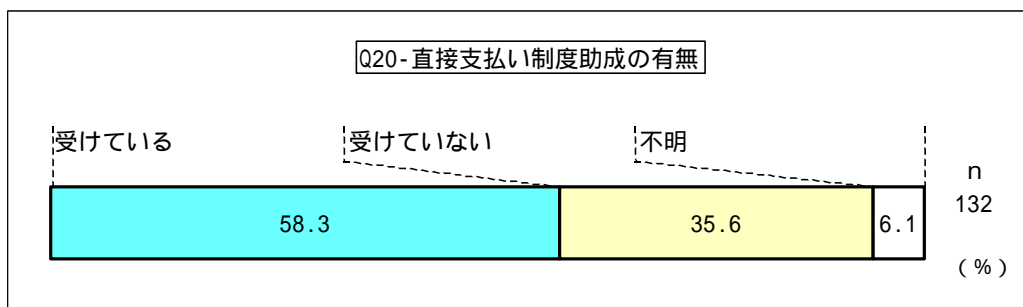
問 18 . 放牧酪農についてどうお考えですか



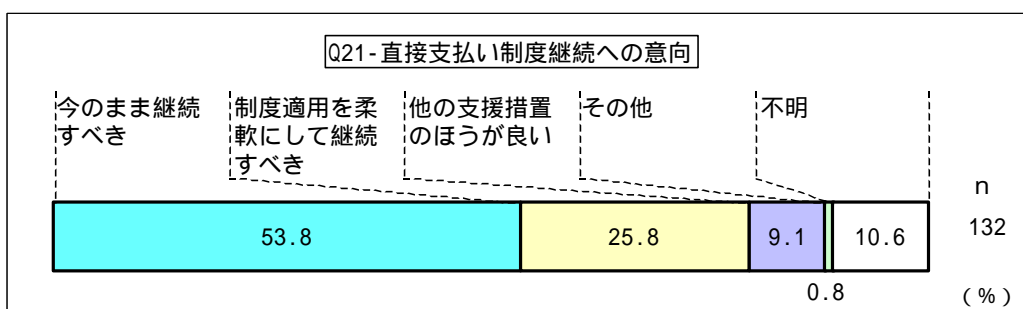
問 19 . 放牧肥育についてどうお考えですか



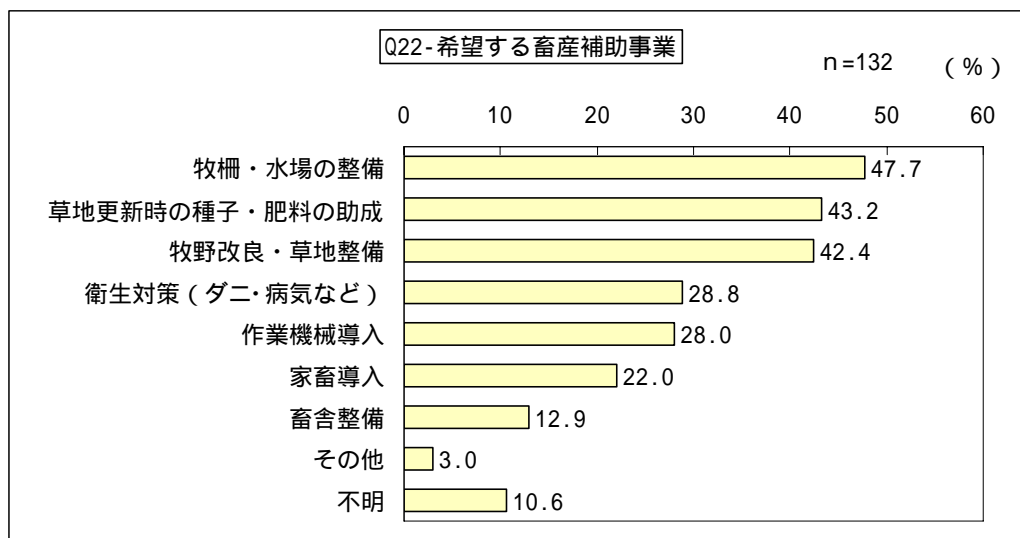
問 20 . 組合で中山間地域等直接支払い制度による助成を受けていますか



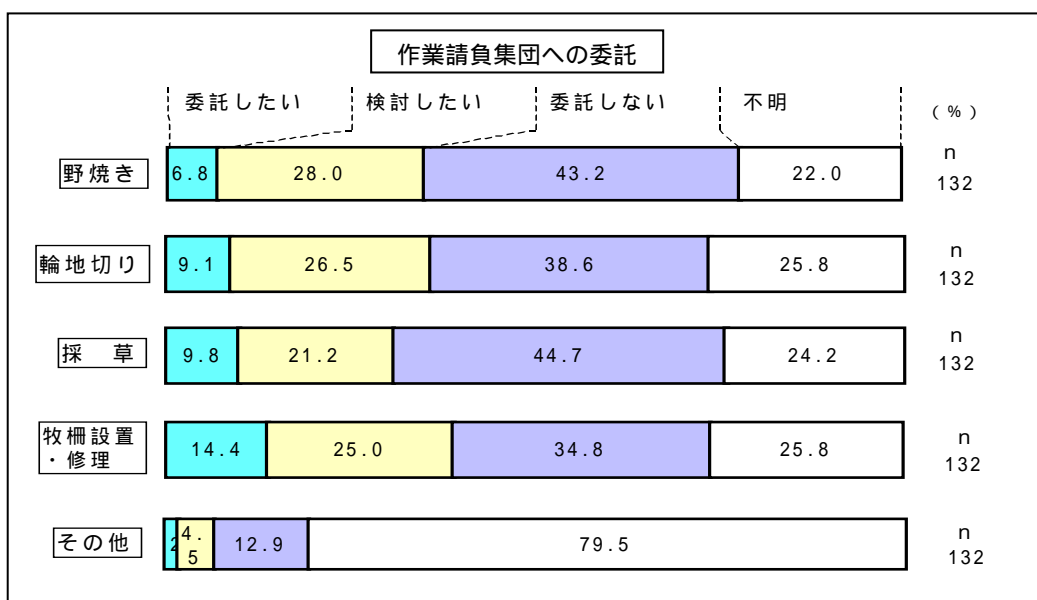
問 21 . 中山間地域等直接支払い制度は平成 16 年度で終了する見込みですが、それについてどうお考えですか



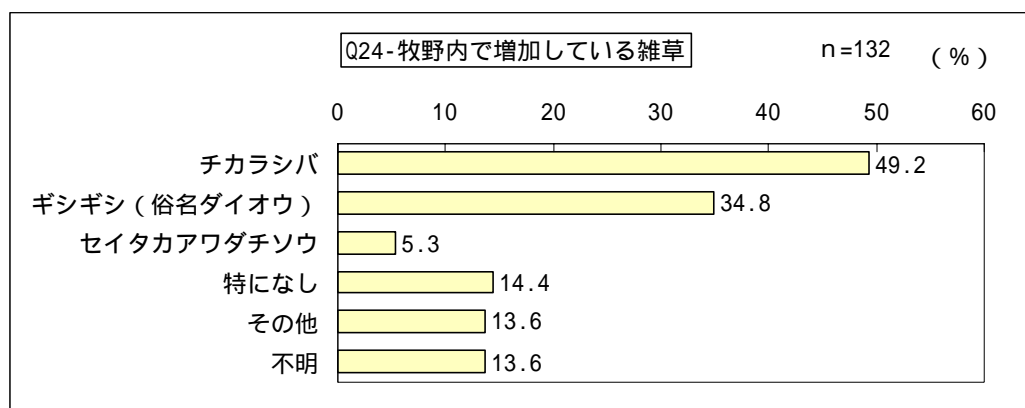
問 22 . 畜産を継続していくために、どんな補助事業を希望しますか ( 3 つまで選択 )



問 23 . 作業請負集団 ( コントラクター ) への委託について、どのようにお考えですか

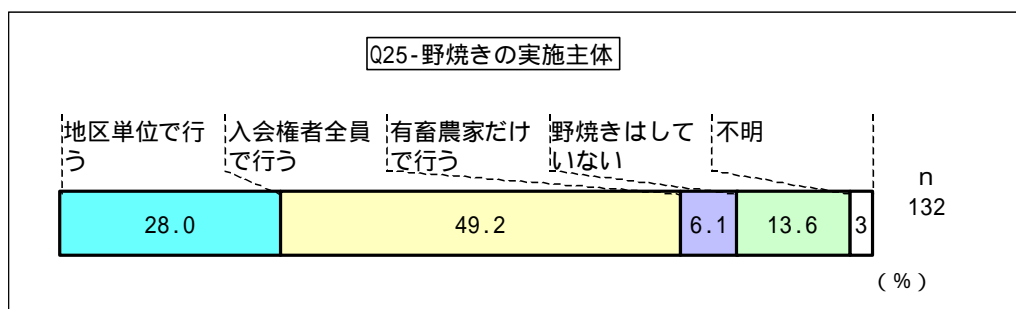


問 24 . 牧野内で増加している雑草のうち、面積が最も大きい種類は何ですか

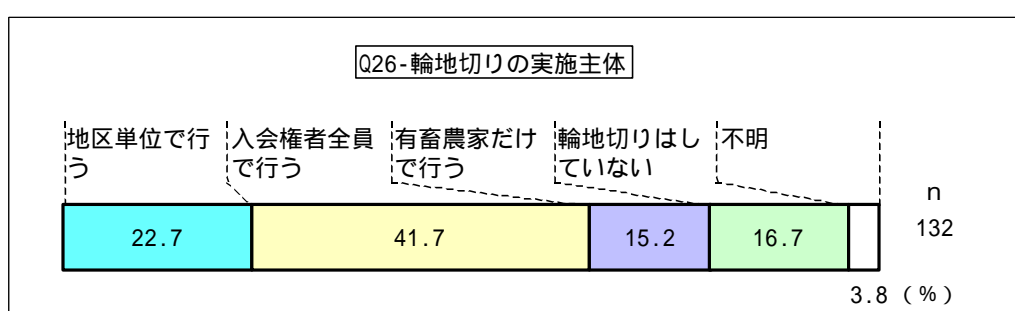


輪地切り省力化について

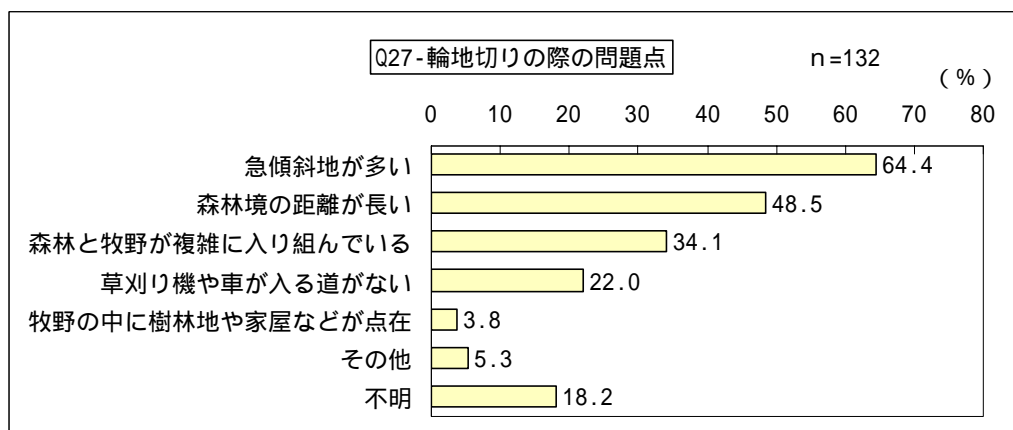
問 25 . 現在、貴牧野内では野焼きはどのように実施していますか



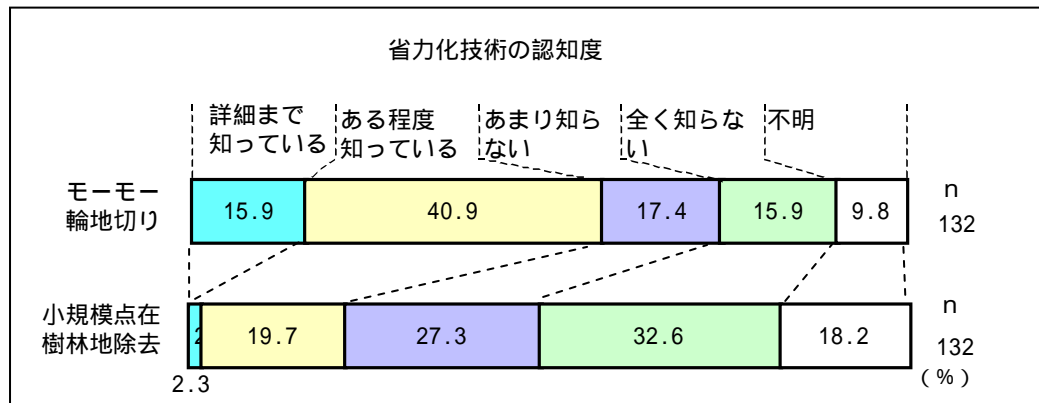
問 26 . 貴牧野内では輪地切りはどのように実施していますか



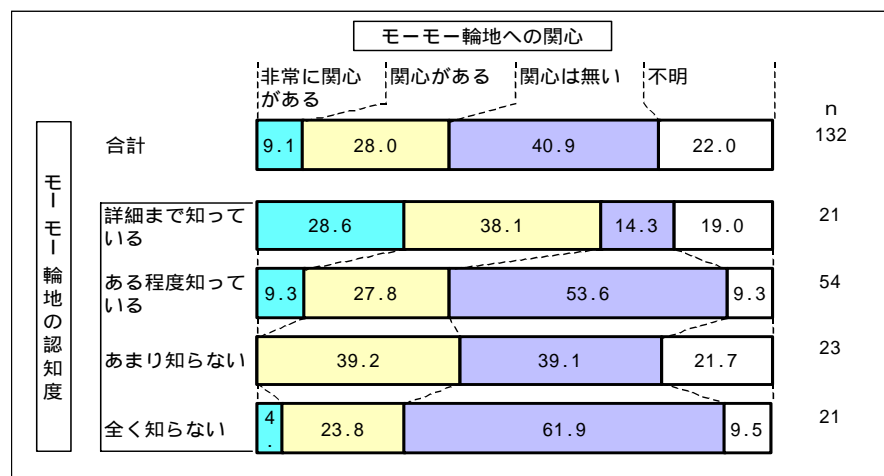
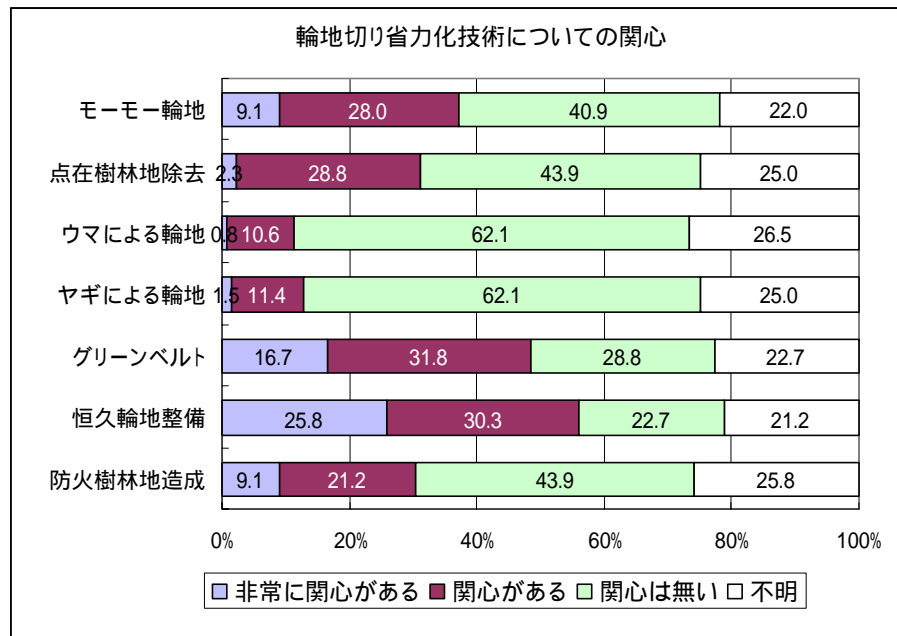
問 27 . 輪地切りが必要な箇所、とくに問題となることはどのようなことですか (3つまで選択)



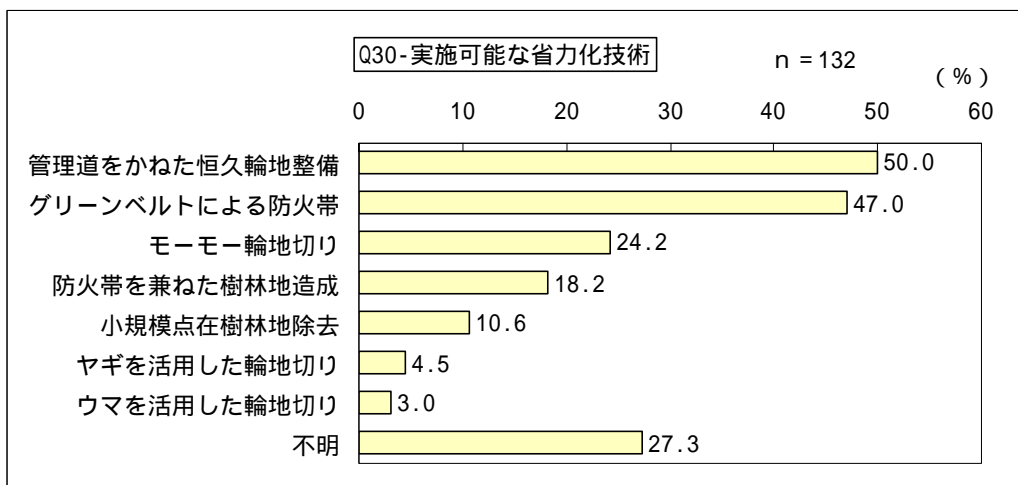
問 28 . 省力化技術であるモーモ-輪地切りと牧野内の小規模点在樹林地除去をご存じですか



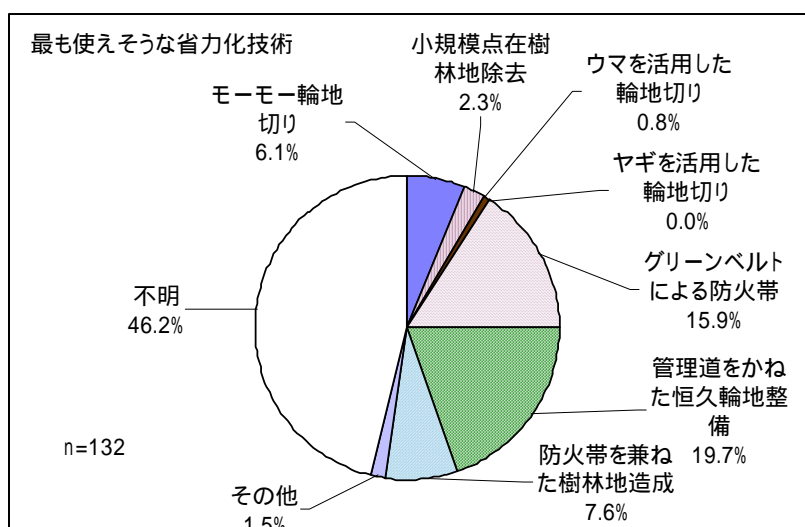
問 29 . 上記 2 種も含め、輪地切り省力化技術について関心がありますか



問 30 . 省力化技術のうち、貴牧野で使える可能性の高い技術を選んで下さい  
 ( 3 つまで選択 )



SQ-問 31 . 問 30 で選んだ技術のうち最も見えそうな技術はどれですか



SQ-問 32 . 実際に導入するための条件として、どのようなことが必要ですか  
 ( 2 つまで選択 )

